

ノスリ (学名: *Buteo buteo japonicus*)

[タカ科ノスリ属]



ノスリはカラス程度の大きさ (52 ~ 56cm) の猛禽類です。

亜高山から平地の林に棲み、付近の川原や耕地などの開けた場所で餌を探し、小鳥をはじめ、ネズミ等の小型哺乳類、ヘビ、カエル、昆虫まで食します。本来は留鳥ですが、只見町では春から秋までしか見られません。電柱にとまって周囲を見回し、獲物を探している姿がよく見られます。獲物を見つけると向かい風による停空飛翔(ホバリング)で狙いをつけ、

急降下して獲物を捕えます。巣は林内の大木の枝の股に枯れ枝を積み重ねて皿型の巣を作り、5月頃に2~3個の卵を産み、卵から孵ってから約40日程度で巣立ちます。比較的良好に鳴く鳥で、繁殖期には巣の上やその付近で「ピョーツ、ピョーツ、ピョーツ」と鳴きます。

企画展示

只見の大型哺乳類とその生態

期間 10月12日(土)~12月28日(土)

自然観察会

ブナの天然林と歴史の道を歩く 要予約

日時 10月20日(日) 9:00集合~15:00解散

コース 入叶津登山口~山神杉のブナ林~沼ノ平

参加費 大人1500円 子供1000円

お申し込み 只見町ブナセンター 0241-72-8355

ブナセンター講座

ツキノワグマの生態と付き合い方

日時 11月10日(日)13:30~15:00

場所 ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

講師 山崎 晃司(茨城県自然博物館)

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

白いオタマジャクシを発見!!

夏の終わりに楢戸の横山豪さんが自宅の池で白いオタマジャクシを発見しました。

黒いオタマジャクシは皆さんも良く目にすると思いますが、白いものは探してもなかなか見つからないと思います。

写真のように白くなる理由を調べたところ、劣性遺伝や突然変異によってメラニン色素がなくなる「アルビノ」という病気が考えられるそうです。ただ、自然の中では目立ちやすくなってしまうため生き残ることが難しくなるという事でした。

